

Lysoforte Dry

1. 製品及び会社情報

製品名	: リソフォルテドライ (Lysoforte Dry)
用途	: 酵素処理レシチン混合飼料。詳細は製品仕様書を参照のこと。
会社名	: Kemin Industries (Asia) Pte Ltd
住所	: 12 Senoko Drive Singapore 758200
電話番号	: +65-67551633
FAX 番号	: +65-67541266
電子メールアドレス	: Singapore@kemin.com
ホームページアドレス	: www.kemin.com
緊急連絡先	: ケミン・ジャパン株式会社 Tel: 03-3239-2501

2. 危険有害性の要約

本製品は、化学品の分類および表示に関する世界調和システム(GHS)および EC 指令 1272/2008(CLP 規制)に基づき、危険品には区分されない。

3. 組成、成分情報

化学名又は一般名	CAS 番号	絵表示及び注意喚起語	濃度(%)
有害性を持たない原料			100%

4. 応急措置

- 吸入した場合	: 吸入した場合、当人を汚染された領域から移動させ、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは、医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合	: 無理に吐かせてはならない。原因によらず意識がない、もしくは激しく震えている場合には何も経口で摂取させてはならない。水で口をよくすすぐ。気分が悪いときは、医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合	: 接触部を石鹸水でよく洗い流す。皮膚に刺激を感じる場合は、医師の診断を受ける。
- 目に付着した場合	: まぶたを開いたまましっかりと押さえて流水で数分間洗い、汚染物質が

Lysoforte Dry

- 完全に洗い流されるようにする。医師の診断を受ける。
- 応急処置設備 : 眼洗い設備、安全シャワー、通常の手洗い設備
 - 医師への助言 : 症状に応じて処置する

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 二酸化炭素、粉末消火剤、または泡消火剤を使用する。
- 適切でない消火剤 : 水噴霧を使用しないこと。
- 燃焼発生物による危害 : 燃焼により、有毒で刺激臭のある気体や、一酸化炭素、二酸化炭素など窒息性のガスが発生する可能性がある。
- 特有の危険有害性 : 不明
- 消火を行う者の保護 : 陽圧モードの空気呼吸器(SCBA)、化学用保護衣等の全身保護具を使用する。水噴霧により熱に晒された容器を冷却してよい。安全な位置からの消火に努める。製品がドレイン、排水路へ流れ込まないようにする。

6. 漏出時の措置

- 緊急対応 : 曝露を避けるため適切な保護衣、保護具を着用すること。保護されていない人員は退避する。粉塵を吸入しないこと。粉塵発生を防ぐため清掃する。可能であれば水を撒くか、吸引式の装置を用いるなどして粉塵の出ない方法で回収を行う。回収した物質は、リサイクルまたは廃棄のための適切な表示をした容器に収める。地方自治体の法令に従って廃棄する。下水または水路の汚染が生じた場合、地方自治体の法令に従って担当部局に通報する。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い上の注意 : 適切に換気された作業場で使用する。粉塵の発生を避ける。粉塵の吸入や皮膚、眼への接触を避ける。取扱時には適切な保護手袋、保護衣(首元、手首にボタンのあるもの等)、及び眼、顔面用の保護具を着用する。衛生状態の維持に務める: 使用後の手洗い、飲食や喫煙、トイレ施設使用前には手洗いを必ず行う。
- 保管 :

Lysoforte Dry

直射日光の当たらない、乾燥した涼しい場所に保管する。使用しない時には容器を密閉する。適切にラベル表示された容器に保管する。

8. 曝露防止及び保護措置

職業曝露の許容濃度 : 本製品についての曝露許容濃度は確立されていないが、含有するある種の化学物質への曝露は有害反応やアレルギー反応を悪化させるため、可能な限り最小限に抑える必要がある。それぞれの物質に対する、各国での曝露基準は下記のとおりである:

国	化学物質	曝露基準	曝露上限	単位
シンガポール	粉塵	TWA	10	mg/m ³

TWA (時間加重平均許容濃度): 通常週 5 日の 8 時間労働に換算した場合の空気中の許容濃度。

生物学的許容量 : 設定されていない。

技術的対策 : 周辺大気中の粉塵レベルをできるだけ低く保つため、作業場の換気を十分に行うこと。閉鎖領域で粉塵が発生して自然換気が不十分な場合、換気/排気設備が必要。

呼吸器用の保護具 : 技術的対策としての換気が十分でなく粉塵に暴露しうる場合、交換可能な粒子フィルターを装着した保護マスクを使用する。

眼の保護具 : 側面の保護された安全メガネまたは化学用保護ゴーグルを着用する。作業環境に応じて適切な眼/顔面の保護具を選択する。

手の保護具 : PVC のような不浸透性素材の保護手袋を着用する。取り扱い方法やリスクアセスメント等、作業環境に応じて適切な手の保護具を選択する。

身体の保護具 : 首及び手首までボタンで留めた作業衣等、適切な保護衣を着用する。大量に使用する場合は、化学防護された前掛けを着用する事が推奨される。

9. 物理的及び化学的性質

外観 : 粉末

色 : オフホワイトから薄い茶色

臭い : 脂質臭

分解温度 : 不明

融点 : 不明

Lysoforte Dry

沸点	: 不明
水への溶解度	: 水に不溶
pH(10%水溶液)	: 不明
蒸気圧	: 不明
蒸気密度(大気=1)	: 不明
蒸発率	: 不明
臭気閾値	: 不明
n-オクタノール/水	: 不明
比重	: 0.60 – 1.00 g/cm ³
引火点	: 不明
燃焼性	: 不明
自己発火温度	: 不明
爆発下限	: 不明
引火上限	: 不明
その他の情報	: 粒径: >85% メッシュ#20(ASTM)を通過

10. 安定性及び反応性

安定性	: 通常の保管、取り扱い条件下では安定。
避けるべき条件	: 高温多湿を避ける。
混触危険物質	: 酸化剤、強アルカリへの曝露を避ける。
危険有害な分解生成物	: 火災により、刺激性の煙霧および一酸化炭素、二酸化炭素を含む窒息性のガス発生する可能性がある。
危険有害な重合生成物	: 有害な重合の発生は知られていない。

11. 有害性情報

経口毒性	: 飲み込んだ場合、口の周りや喉、消化管に炎症を引き起こす可能性がある。
吸入毒性	: 粉塵の吸入により鼻、喉、呼吸器の炎症や咳、喉の痛み、呼吸困難を引き起こす可能性がある。
皮膚	: 皮膚に炎症を起こす可能性がある。
眼	: 粉末の機械的、化学的な影響により眼の炎症を起こす可能性がある。
呼吸器感受性	: 呼吸器感作を起こすとは考えられない。

Lysoforte Dry

皮膚感作性	: 皮膚の感作を起こすとは考えられていない。
生殖細胞変異性	: 変異原性があるとは考えられていない。
発がん性	: 発がん性があるとは考えられていない。
繁殖毒性	: 繁殖毒性があるとは考えられていない。
特定臓器毒性 – 単回曝露	: 単回曝露により特定臓器へ毒性を示すとは考えられない。
特定臓器毒性 – 反復曝露	: 反復曝露により特定臓器へ毒性を示すとは考えられていない。
吸引性呼吸器有害性	: 吸引性呼吸器有害性を示すとは考えられない。
慢性毒性	: 知られていない。

12. 環境影響情報

生態系への毒性	: 生態系への影響を示すデータはない。
残留性/分解性	: 本製品は天然原料ですぐに分解されるものと、環境中に残存するものを含んでいる。後者は自然界に存在する鉱物(無水ケイ酸等)であり、環境中で深刻な害をもたらすとは考えられない。
移動性	: 本製品は水に不溶であり、環境中で高い移動性を示すとは考えられない。
生物濃縮ポテンシャル	: 本製品の成分は生物濃縮を起こすとは考えられない。
環境保護	: 本製品を水路、ドレーン、下水に流さないこと。

13. 廃棄上の注意

廃棄	: 漏出物や廃棄分については、地方自治体の法令に従い廃棄する。
----	---------------------------------

14. 輸送上の注意

国連のモデル法令に基づき、輸送の際の危険品には分類されない。

15. 適用法令

適用法令	: 本製品は、GHS および EC 指令 1272/2008 (CLP 法令)により、危険品には分類されない。
------	---

Lysoforte Dry

16. その他の情報

安全データシート作成日 : 本 SDS は 2016 年 12 月に作成された。

参照文献

シンガポール

Singapore Standard SS586 : Part 1 to Part 3, 2008

Singapore Standard SS532:2007 : The Code of Practice for the storage of flammable liquids.

Workplace Safety and Health (General Provisions) Regulations 2006

日本

許容濃度等の勧告(2012-2013) 日本産業衛生学会

化学品の分類および表示に関する世界調和システム(GHS)

Classification and Labeling Inventory database – 欧州化学機関

国際連合危険物輸送勧告(UNRTDG)

本安全性データシート内容及び様式は、EC 規制(EC)第 1907/2006 号に基づく。

記載内容の取扱い

本安全性データシートの情報は、信頼性があると考えられる資料から入手されたものですが、その正確性に関しては、明示あるいは黙示を問わずいかなる保証をなすものではありません。本製品の取扱い、保管、用途又は廃棄の条件又は方法については、弊社の責任の範疇を越え、また、弊社の知識の範囲外であると考えます。これらの理由から、本製品の取扱い、保管、使用又は廃棄に起因して又は何らかの形で附随して生じた損失、損害又は費用については、弊社が責任を負うものではなく、ここに責任の否認を明記いたします。本安全性データシートは、本製品のみを対象として作成され、使用するものです。他の製品の一部として本製品を使用する場合、本安全性データシートは適用されない場合があります。

以上